

20歳を過ぎたら子宮頸がん検診を受けましょう

～あなたの子宮、命を守るのはあなた自身です～

子宮頸がんは、女性のがんの中で比較的多く、主に20代～30代の若い女性に増えています
 検診では、がんになる前の細胞の異常を見つけることができます

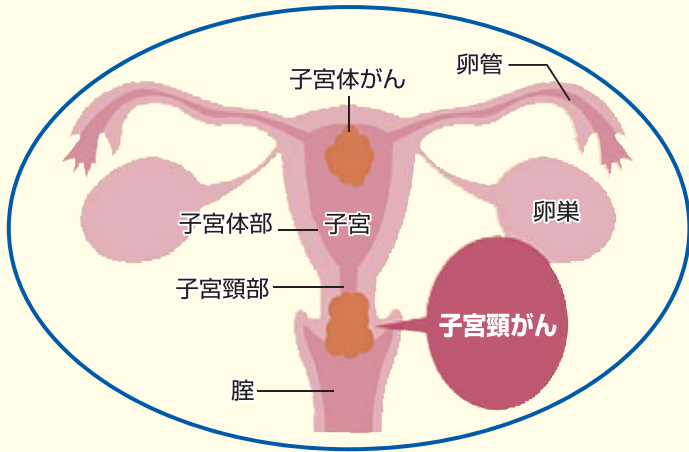
子宮頸がんって？

好発年齢は

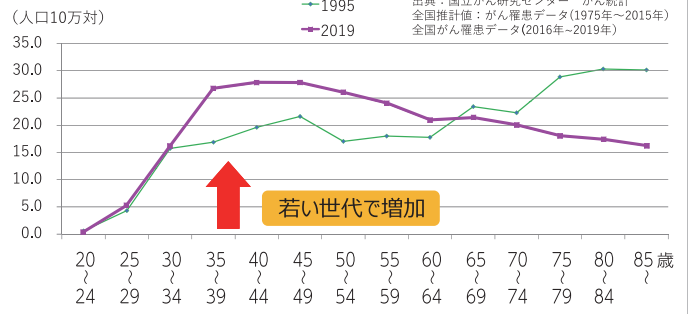
子宮頸がんは20代後半から増加します

子宮がんには「子宮頸がん」と「子宮体がん」があります

「子宮頸がん」は子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんです



年齢階級別罹患率（上皮内がんを含まない）



自覚症状は

初期には自覚症状はほとんどありません

原因は

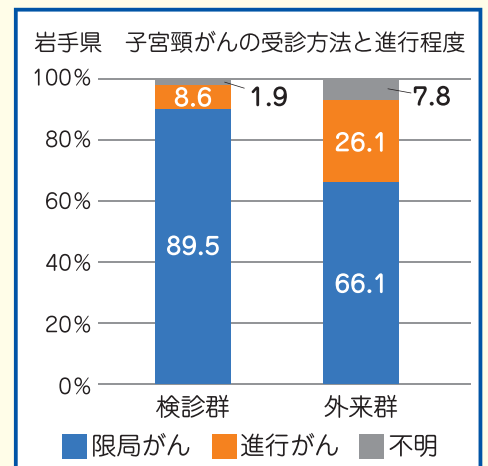
ヒトパピローマウイルス (HPV)
 主に性交渉で感染します

ヒトパピローマウイルスは皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスです
 性交渉の経験があれば誰でも感染する可能性があります

定期的に検診を受けることで早期がんや前がん状態を発見できます

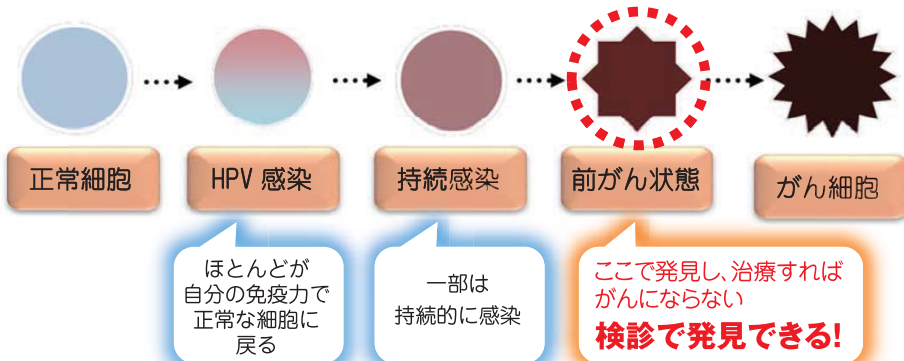
早期発見により子宮を残す手術ができ、将来の妊娠・出産が可能になります

検診群から早い時期のがんが多く発見されています



資料：岩手県がん登録報告書 平成29年（2017）

● 正常な細胞が子宮頸がんになるまで... ●



検診群：がん集団・個別検診、健康診断、人間ドックでがんと診断された方
 外来群：自覚症状があって医療機関を受診してがんと診断された方
 限局がん：がんの進行が当該臓器内にとどまっている早い時期のがん
 進行がん：がんがリンパ節や他の臓器まで浸潤・転移した進行がん

検診内容

問診

検診結果判定のための、大切な項目です

視診

腔鏡を使って子宮頸部の状態を観察します

細胞診

専用のブラシで子宮の入り口から細胞をこすって採取し、顕微鏡でしらべます

内診

経腔超音波検査

(内診の補助検査)

子宮・卵巣・子宮周辺の検査です



- “怖い” “恥ずかしい” というイメージがありますが、検査は短時間で終わります。自身の体を守るため、勇気を出して受診しましょう。
- “痛み” には個人差があります。リラックスして受けましょう。

結果が届いたら…

要精密検査

必ず医療機関を受診しましょう

精密検査には

細胞診

コルポスコブ診

HPV検査

組織診

超音波・MRI など…

異常なし

次回の検診を受けましょう

気になる症状がある時は、検診ではなく医療機関を受診しましょう！

- 不正出血(月経以外の出血)
- 月経異常(長引く・量が多い…)
- 異常なおりもの(量や色の変化)
- 下腹部の痛み・不快感など

子宮体がんって？

「子宮体がん」は子宮体部(子宮の奥)にできるがんで、閉経後の50代以降に多く、ホルモンバランスの異常などが原因です。自覚症状に不正出血が多くみられます。症状がある方は医療機関での検査が必要です。

子宮頸がんは定期的な検診とワクチンで予防できます

- ♥ 子宮頸がんの予防ワクチンはすべての高リスク型HPVの感染を防ぐことはできません
- ♥ ワクチンを接種しても定期的に子宮頸がん検診を受けましょう
- ♥ ワクチン接種については、医療機関にご相談ください

がん検診にはメリットとデメリットがあります

メリット(利益)

- 1 早期発見・早期治療により命を守る(がん死亡の減少)
⇒ 体がやさしい・治る確率が高い・治療費が軽減
- 2 子宮頸がんになる前(異形成)の段階で発見・治療することで予防可能
- 3 検診で「異常なし」と確認ができ安心

デメリット(不利益)

- 1 検診ですべての子宮頸がんが見つかるわけではありません(偽陰性)
⇒ 画像等の検査で見つけにくい形や場所に発生する場合や進行の速いがん
- 2 がんがなくても、検診の結果が「精密検査」となる場合があります(偽陽性)

精密検査の結果はがん検診の質を保つ精度管理(検診の評価)に活用されます

精密検査の結果は、検診の精度向上のため、医療機関と情報連携します
また、その結果は実施主体(市町村や事業所)と共有します

(これは個人情報保護法の第三者提供の制限の例外事項として認められています)

これらのことをご理解のうえ、検診をお受けください